

山形県感染症発生情報

第9週(平成21年2月23日～平成21年3月1日)

疾患名	報告数	増減	特記事項
(小児科定点 30)			
RSウイルス感染症	1		
咽頭結膜熱	6	△	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	141	▲	多発中
感染性胃腸炎	336	▽	多発中
水痘	66	▽	多発中
手足口病	0	▽	
伝染性紅斑	0	▽	
突発性発しん	32	△	
百日咳	0		
ヘルパンギーナ	1	△	
流行性耳下腺炎	64	▲	多発中
(インフルエンザ定点 48)			
インフルエンザ	1037	△	多発中
(眼科定点 8)			
急性出血性結膜炎	0		
流行性角結膜炎	3	△	
(基幹定点 10)			
クラミジア肺炎	0	▽	
細菌性髄膜炎	0		
マイコプラズマ肺炎	2	△	
無菌性髄膜炎	0		

(▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少、多発中:報告数50名以上)

疾患名	報告数			累積報告数 *2009年1月から	
	第9週	1週前	2週前		
2類感染症	結核	3	4	3	37
3類感染症	コレラ	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	6
	パラチフス	0	0	0	0
4.5類感染症	E型肝炎	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	1	0	1
	アメーバ赤痢	0	0	0	0
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0
	急性脳炎	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	1
	ジアルジア症	0	0	0	0
	髄膜炎 細菌性髄膜炎	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0
	風しん	0	0	0	0
	麻しん	0	0	1	1

- インフルエンザは、第4週をピークに減少傾向を示していたが、今週は県内全地区で増加し、前週の約1.6倍多く報告された。地区別では、村山・置賜地区で定点当たり報告数が多い。迅速キットの結果は、B型が村山・置賜地区を中心に増加しており全体の約7割を占めている。庄内地区では依然としてA型が多く検出されている。山形県衛生研究所での分離状況(1月以降に採取した検体)はAノ型型が大半を占めているが、庄内地区ではA香港型の割合も高い。県内の集団発生は、2月23日以降21施設から報告があった。手洗い、うがいの励行、マスクの着用など予防対策が重要である。
- 感染性胃腸炎は、村山・置賜・庄内地区で流行が続いている。本県の定点当たり報告数は全国で最も多い状態で推移している。ヒトからヒトへの感染力が強いいため、感染者の吐物や便の処理には十分注意するとともに、手洗いの徹底が重要。
- 流行性耳下腺炎は、山形市を中心に増加した。置賜・庄内地区でも引き続き流行しており、県全体の報告数は5週連続で増加している。患者は5歳をピークに2～5歳が大半を占めている。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、村山地区の定点あたり報告数が多く流行が続いている。
- 水痘は、庄内地区の定点当たり報告数(4.25)が全国平均(1.68 第8週)を大きく上回っている。
- 結核は、村山地区から患者1名(東南村山 1)、無症状病原体保有者2名(東南村山 1、西村山 1)報告された。また、第8週分に、置賜地区から患者1名(東南置賜 1名)が追加報告された。

(3月3日現在 山形県衛生研究所)